

二〇一七年二月一日

神主の祝詞肅々木の葉降る
蒼天へ千手広げて柿熟るる
蹲踞の水飲む小鳥庭小春
時雨急客四散する大道芸
草蟲払ひつつ待つ里のバス

二〇一七年二月九日

飛火野に隣る初冬の屋敷町
堀越しに落葉掃かるる音聞こゆ
うなじふと打たれし気配初時雨
未枯れの広野吹き分け風渡る

二〇一七年二月八日

山はいまパッチワークのごと粧ふ
月の浜彼と彼女の影法師
浮見堂へと尻向けて鴨潜く
角きりの痕白々と鹿たむろ

二〇一七年二月七日

水底に煌めく溪の散紅葉
二上山へ傾くつるべ落としの日

やよい

菜々

菜々

さつき

よう子

たか子

さつき

ともえ

みどり

みどり

智恵子

ぼんこ

たか子

宏虎

明日香

二〇一七年二月六日

木の葉髪持ち上げられぬ力石
神杉の裾模様なす蔦紅葉

二〇一七年二月五日

潮騒を聴きつ一献月の宿
糸編むシルバースhirtにゆられつつ
四囲の嶺々影絵となりて秋日落つ

二〇一七年二月四日

月白の空白雲の駆けやまず
秋天に全容見せし浅間山

宏虎

せいじ

智恵子

やよい

せいじ

菜々

たか子

毎日句会みのる選・二〇一七年二月二日